

第12回岐阜大学教育セミナー 教育講演

期日：2008年7月24日（木） 21:00～23:00

場所：岐阜大学応用生物科学部1階・第101講義室

<http://www1.gifu-u.ac.jp/vethsptl/>

犬における下顎骨骨折の整復

渡邊 一弘

岐阜大学応用生物科学部獣医外科学研究室

はじめに

犬や猫の顎骨の骨折は、事故による衝撃や重度の歯周炎で歯槽骨が吸収されることにより起こり、そのほとんどが下顎骨に認められる。下顎骨骨折の治療では、下顎骨の整復と同時にすぐに食事ができるようにしっかり固定しなければならない。本稿では、犬の下顎骨骨折における手術法の選択と手術手順、必要な器具・材料について解説する。

手術法の選択

手術法の選択は、術前の口腔内検査とX線検査を実施し、図1のように骨折部位と歯の状態を確認することによって行う。さまざまな手術法があるが、著者の経験では創外固定がほとんどの下顎骨骨折をカバーすることができると感じている。

犬歯歯冠間ワイヤー固定

犬歯歯冠間ワイヤー固定は、犬歯よりも前方（近心）の骨折や下顎骨結合部分離の場合に行う（図2）。犬歯を利用した固定のため、犬歯に歯周炎がなく、動揺しない状態の場合にかぎり適用し、犬歯の動揺や欠損がある場合は、創外固定を選択する。

準備するもの

径0.6～1.0 mm程度のワイヤーとプライヤー（図3）、さらにワイヤーを歯面に固定するためのコンポジットレ

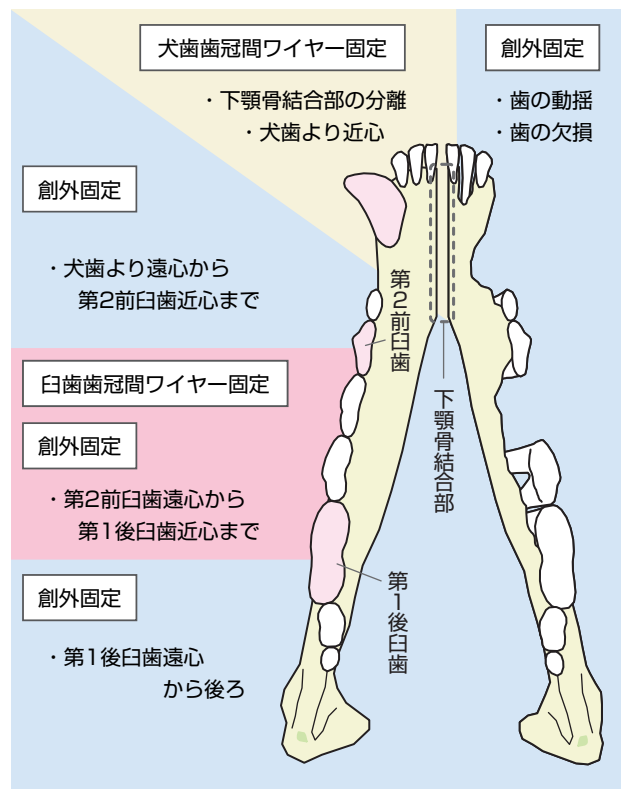


図1 骨折部位と手術法の選択
手術法は下顎骨の骨折部位により異なるが、歯の動揺や欠損がある場合は創外固定を選択する。

ジン（図4）あるいはスーパーボンド（図5）が必要である。これらの材料は、それぞれの取扱説明書に従って使用する。

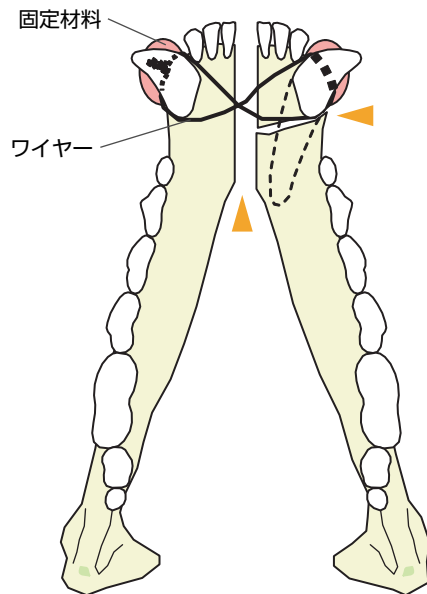


図2 犬歯冠間ワイヤー固定の適用
(▶ : 骨折部位)



図3 ワイヤー (上) とプライヤー (下)

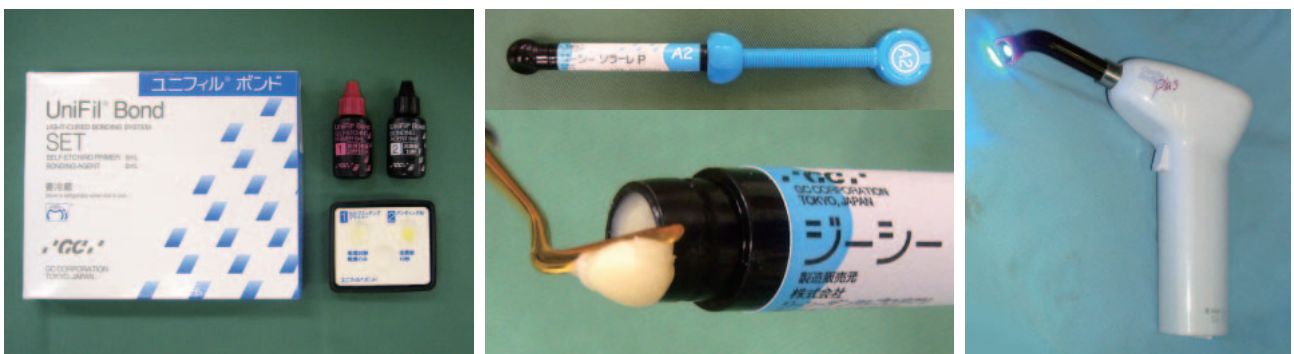


図4 エッチング・ボンディング材 (左), コンポジットレジン (中), 光照射器 (右)
エッチングとはボンディング (接着) を容易にするための酸による歯面の処理をいう。ボンディングとコンポジットレジンの硬化には光照射が必要である。



図5 スーパーボンド
調合後にワイヤーと歯面に塗布し、接着する。

手術手順

① 骨折部位の確認：鎮静・麻酔下で口腔内を観察し、骨折部位を確認する。X線検査も行う。

